



114
A 803
1

右供貴覽准也

明治三十一年七月六日

西郷海軍大臣

大隈外務大臣

松島艦長報告書

大隈正十一年

264
2-1



秘

松島秘第十号

フィリピン島ニ於ケル居留帝國臣民ノ保護
并ニ軍事視察ニ関スル報告

第一回

明治三十一年六月十七日

於馬尼刺灣

松島艦長遠藤喜太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

一 命令

貴艦ハ来ル日フィリピン島ヘ向ケ回艦シ居留帝國臣民
ノ保護及軍事視察ニ從事ス可シ
明治三十一年六月二日 於馬公港

河原常備艦隊司令官

大正三年六月十七日
海軍大臣
西郷從道

遠藤松島船長殿

二 航海

(自澎湖島馬公港
至呂宋島馬尼刺灣)

本船ハ天候ノ都合ニ依リ更ニ許可ヲ得第一ニ記載スル命令ニ隨ヒ明治三十一年六月五日午前八時十五分馬公港後錨針路ヲ南ニ西ニ定ム

同日午前九時十分頃バリタシ水道ヲ巨ルコト西方約百五十哩ノ位置ニ於テ北西ニ奔流スル激潮(其長サ約七八哩幅約一哩)ニ逢フ為メニ抗潮ノ艱側ハ一時砲門及舷窓ヲ閉塞スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

同八日午前十時五分スビツク沖ヲ通過シテコレギドール島ノ北方水道ニ入ル其後本船ハカビテ湾方面ニ針路ヲ変シ航スルト約九哩ノ処ニ於テ未船隊ノ哨艦ヒウマカワツクノ来進スルニ会ス即チ航ヲ止ム士官一名未船其司令長

官ノ挨拶ヲ述ベ且ツ本船ヲカビテ湾(未船隊ノ錨地)ニ寄航セシメテ傳フ即チ該湾ニ到リ未船隊ノ附近ニ漂泊シ礼砲ヲ発シ銃ヲ本官ハ司令長官ヲ訪問シ午後一時四十五分馬尼刺湾ニ後錨ス此間ハ天氣好良海上静穏南方ノ微風ヲ得船内之障ナク各員健康ニ航海セリ

三 湾内ノ光景(六月八日)

米國艦隊番・英國若クハ米國旗ヲ掲ゲタル汽船並ニ帆舩數隻ハ浪速秋津洲西船長既報ノ如ク依然カビテ湾ニ英艦「イムエルタリ」佛艦「ブルイ」獨艦「イレ子」及「コレモラ」ニ吾浪速番ニ各國ノ旗章ヲ掲ゲタル汽船十餘隻又後ニ精載ヲナスハ馬尼刺湾ニ在リ

各國軍艦間ニ於ケル礼式及訪問交換ノ規定ノ如シト

星氏先キニ秋津浦艦長報告ノ次中モアリシニ依リ在留日
本領事ヨリ艦督ニ打合セテ上西国ニ對シテハ特ニ礼砲ヲ
奏セタ

四 陸上市街ノ現状

市街ノ景況ハ浪連秋津浦艦長ノ報告ニ依リ是ナル所ナリ
ト星氏日ヲ追テ益々寂寞ノ度ヲ高メテ商業ノ以キハ
殆ト皆世ノ安ナリ

五 避難者

帝國臣民富岡卯七郎大橋高尾及小見ノ三名并ニ
富岡卯七郎妻并ニ其親族(夫)八名合計十一名ハ五月
九日避難者為メ浪連ヨリ本艦ヘ轉乘ス但此以外ノ在留
臣民ハ危険ノ切迫スルノ概ニナラズ乘艦避難スル筈ナリ
而シテ富島在留帝國臣民ニ關シテハ別表ニ掲ク

六 禮式

六月九日本官ハ西国艦督陸軍中將ドンパシリオアグステ
イン等ヲ訪問ス孰モ戰時中ニ付差礼ヲ欠ク旨ヲ告ク

七 米艦隊ノ動靜

米國艦隊ハ依比トシテカビテ湾ニ碇泊セリ蓋シ本國ヨリ陸
兵ノ至ルヲ俟ツモノ、如シ目下湾口ノ封鎖ヲ嚴シシ毎夜探
海燈ヲ以テ湾内ヲ警戒ス又隱密救護ニ對シ助力ヲ與
ヘワアンコトハ疑ヒサキモノ、如シ

五月十日冒昧爽其艦隊ノ一部「ゴストン」コンコルド及一小艦
(西國ヲ捕獲シタルモノナラシ)即チ二檣一烟突ニシテ艦首
ニ小口至ホトリヤ砲一門艦橋ノ兩側ニ二連小銃口至ル
デシ極砲二門艦尾ニ四連ノルデン極砲一門ヲ裝備シタル
手)單縱陣ニ列シカビテ湾錨地ヨリ馬尼刺燈台沖
ニ

中立各國船舶ノ錨地ニ来リ暫時漂泊、後其錨地ニ歸泊ス蓋シ沿岸ノ情况如何ヲ偵察セシムル也

八 叛徒ノ情况ニ関スル報告

叛徒ハ目下馬尼刺市ヲ合圍シ市ノ内外ニ於ケル西軍ノ聯絡ヲ断絶ス本艦到着ノ當時ハ馬尼刺市ノ陥ルハ且夕ニ迫ルモノ、如ク風説セラレト雖モ今ヨリ至ルモ未タ其實ヲ唯毎日西軍挑應ノ砲聲ヲ聞ク、自下ノ要ニ於テ米國艦隊ノ補助ヲ得ザルニ容易ニ叛徒、馬尼刺市ヲ占領スルトモ思ハス尙本艦將校ノ内戦況ニ関スル主任ヲ置キ其報告左、如シ

六月九日

一 聞ク要ニ依レハ叛徒ハ多付マラテサレタナ及サシフテテモレヲノ三方ニアリ、カラカレノ叛徒ハ武裝到着次

第廿日以蜂起スベシト云フ

目撃事ニ関スル事項

一 マラテハマニラ公園ヲ距ル約半哩ノ至ニ在リ旧大車庫ノ在リシ所ヲ以テ砲台ト爲シ陸砲四門ヲ備フ此方面ヲ守ル西兵亦千アリト云フ(跨大ニ過キルモノ)此砲台ヨリ東方ニ防禦工事着手中ナリ叛徒ハ此砲ヲ奪ヒ去リ五百メートル附近ニ心殺ス銃丸ハ常に砲台ニ達ス

六月十三日

一 昨朝一時ヨリカラカレノ叛徒蜂起シ攻撃ヲ始メ西軍ノ防禦線ハカラカレノ北端ニアリ叛徒ノ數五千アリト

六月十四日

三ツ(信ニ難シ)

目撃事ニタシ事項

一 カラカニヨリトレドノ間ニ於テ兵火大ニ起ル叛徒ノ放
火スルモノナリ午後三時迄ノ間ニ於テ叛徒ノ少數ハ川
ノ口輕便鐵道停車場ノ附近ニアリ

六月十五日

- 一 南クボニ探レバカラカニハ已ニ叛徒ノ手ニアリ西軍ハ
カラカニトトレドノ中間ニテ防禦中ナリト
- 一 マミラサレフアンテモレヲノ叛徒ハ異状ナシ
- 一 各方面ノ西軍ハサシモ前進セズ漸次退却スルモノ
如シ南クボニ探レバマラテトレド等ヲ以テ真ノ防禦
線ト為スト云説信ナカカ如シ
- 一 叛徒ハ已ニ水道水源地ヲ掌握ス然レバ水源地ヲ
絶タスト聲言スト云フ

右報告候也

海軍少尉 毛利陽二
 同 田中佐一郎
 同 大尉 岸 久太郎
 同 原 篤慶

松島艦長 遠藤喜太郎 殿

九 土人一般ノ傾向

馬尼刺市街ニ在ル土人ハ職業ノ如何ヲ論セズ皆十叛徒ト
 認ムルモ敢テ過言アラサルベク單ニ之ヲ云ハ其投合ハ好
 時極ヲ伺フモノニ似タリ即チ現ニカルカニ方面守備隊長
 西軍其大佐ノ徳ニ依ル去心六月十一日ノ夜其方面ヲ
 守備セシ土人義勇兵ノ大部隊ハ叛徒ニ投じタリト云フ

五

其他屢之之於飛後ヲ耳ニスルコトアルハ抑之レカ証
例トナスヲ得シカ

十市街住民ニテ日本後ヲ解スルヲ

葡人 ハード・ギース

佛人 時計店主人

十一 馬尼刺灣内出入ノ艦船

六月十日英國商船源生号入港カビテ碇泊シ翌
日当港へ碇留ス察スルニ米國艦隊ニ必要用ヲ運搬
シ来リタルモノ如シ同船ハ同十四日ニ多我ノ清國人ヲ搭
載シ香港ニ向ケ出航セリ

六月十二日独乙海軍司令長友旗艦「カイガリ」オーグスター
号入港ス米國司令長友ハ「ヒウ・マカロク」号ニ乗組シ独乙
司令長友ヲ訪問シテカビテニ帰航ス鏡イテ独乙司令長

官ハ汽艇ニテ米國司令長友ヲカビテニ訪問シ又夜ニ入
リテ再シ同司令長友ノカビテニ行キシモノ如シ

向艦ノ入港ニ付キ市中ニ於テ獨乙ハ西軍ニ援助ヲ請
フ為メニ米港セリトノ風説專ラナリト星氏是信ヲ措クニ
足ラズ唯参考迄ニ止ス

同日英艦「リンソット」号イロイロヨリ入港ス同艦長ヨリ聞
ク聖ニコハ叛徒ハ内地ニ起リ居ルモ居留人民ハ危墜ノ

憂ナク且西兵ハ三百余名アリト云フ
六月十五日佛國軍艦「バスカ」東京ハロングマヨリ入港ス
尚本港艦船ノ出入ハ別表ニ掲ク

十三

西國婦人ヲ見保護ノ件ニ關シテハ既ニ浪連艦長ノ報告
スルモノ如シ其後ノ經過ハ本邦及英法佛ノ四ヶ國ニ於

六

西国高船一艘宛其保護ノ下ニ置キ西国婦女子ヲ
 避難セシムルコトナリシ趣キ三増二等領事ヲ通分アリ
 依リ本船ハ去レテ子孫ノ同財ニ以テ本國司令
 長友ニ通知セリ(即チ松善ヲ三九号出金ノ此)而シテ同船去
 ル十号ヨリ日中高船旗ヲ掲ケ本船近傍ニ碇泊シ居
 未タ避難者ハ乗取セズ但同船ニハ避難者凡ソ二百
 名ヲ搭乗セシムルノ目的ニシテ避難者ニ當リ
 切符ヲ附出シ糧食ハ凡ソ十日分ヲ搭載シアリ
 尚目下各國ニ於テ其國人及西国婦女子ヲ避難ノ為
 ニ保護ノ下ニ置キ高船ハ別表ニ掲ク
 右謹テ報告候也

馬尼刺灣内出入艦船表

入港之部

國旗	種別	艦名	出港地	出港日
英吉利	未詳	未詳	未詳	六月十日
英吉利	源生号	未詳	未詳	六月十一日
獨逸	カイガタリン	未詳	未詳	六月十二日
英吉利	リン子ツト	未詳	未詳	六月十三日
右全	ラットラー	未詳	未詳	六月十五日
佛蘭西	パスカル	未詳	未詳	六月十五日

記事

米國艦隊ニ必要品ヲ運搬シテ來者
 右全
 香港馬尼刺間定期船

出港之部

右	右	英吉利	英國	獨逸	國旗
左	左	流	帆	流	種
帆	軍	船	船	船	別
未	艦	源	未	ガムスタッド	艦
詳	リン子ツト	生号	詳	上海	船名
未	香	香	未	其他	出資先
詳	港	港	詳	馬尼刺	按
六月十五日	六月十四日	六月十三日	六月九日	六月九日	按
カ	馬	馬	カ	馬	按
月	月	月	月	月	按
十	十	十	十	十	按
五	四	三	九	九	按
日	日	日	日	日	按
テ	刺	刺	刺	刺	按

獨逸軍艦交代兵ヲ搭載ス
多數ノ帰国スル清國人ヲ接

呂宋島在留帝國臣民(六月現在)及其摘要

姓	名	所	在	摘	要
田川	森三郎	木カウエ	刺	西語及土人語ニ通ス土着ノモノ	
三峯	音吉	馬	刺	田川森三郎ノ従弟	
神山	辰次郎	カリン	刺	西語及土人語ニ通ス鐵道会社雇員	
富岡	卯七郎	軍艦	刺	西語及土人語ニ通ス	
泉谷	精二郎	馬	刺	貿易会社員	
篠原	耕吉	右	左	領事館手傳	
坂元	志魯雄	右	左	臺灣總督府陸軍部派遣員	
前川	新八郎	右	左	名古屋組陶器商	
宮川	久吉	スビツクナラン	左	大工職	
右	男	右	左		
右	妻	右	左		

姓	大橋	同	同	大橋	米介	小川
名	正松	雪野	高尾	末吉	妻小菊	勝太郎
所	イロイロ	右	軍艦	右	グイサヤス	スビツクナラン
在	港	左	島	左		
摘	輕業師	右	右	右		
		左	左	同伴ノモノ		

合計十七名(領事及書記生ヲ除ク)

要